

## 議会報告会記録（平成 25 年 11 月 25 日（月） コミセン小ホール）

### 1 部 議会報告

問：市長の信任案を出す議会などないはず、大きな問題。判決で明確になっていることが、任命権者の市長に責任を取らせないで市政がうまくいくのか。終わった問題ではない。

答：信任決議は可能でそういう事例はある。教育長の選任時に双方からの聞き取りはできなかったが、市長もその内容については把握しているとのことで、議会は同意したもので、今回の信任決議案の審議は報告の通り。

答：市長は、この件については係争中であり時間が必要であり、市民の代表としての議会の意見を聞きたい。議会の判断があれば真摯に受け止める主旨の答弁があったので、議会としての態度を明確にすべき必要があった。信任以外の議案は出ていなかったために不信任案を含めて出すかどうか確認したが出さないとのこと。少ない事例であるが信任案が議決された。人権問題は別問題として認識している。行政もそう考えている。

問：11月7日付で高裁から文書が出ている。被害者に謝罪を求めて市長室にも教育長室にも行った。みんな責任を取るべき。

答：裁判の最終の経過はまだ確認できていない。当事者との関係、司法の判断、政治的責任等、今後も市民から意見を聞きたい。

問：関連する内容で、議会の運営について質問する。人事案件の審議の時には文書が議員に届いており、即決せずに休憩を挟む方法や委員会審議での調査など、時間をかけるべきではなかったか。

答：本会議開会の直前に文書が届いた。人事案件の委員会付託は事例がないため即決してきた。その時の判断であって、指摘・批判はやむをえない。

問：議員に届けられた文書の内容を点検すべきではなかったか。

答：文書の内容については疑問を感じる点があり個人的な意見もあるが、それぞれの議員の判断であった。人事案件の新しい方法として事前に「面談」する取り組みもしており、改善を図ることを今後も検討する。

問：裁判は敗訴であるのに、議会では信任が通った。裁判中とのことで議会での取り上げもなかったが、結果の責任、信任を可決した責任はどうするのか。

答：すべて議会の判断である。市長がやめる問題とこの件は同じではない。市長がやめるかどうかも含めて議会の判断が市長から求められていたが、一部の議員から信任案が提出されて審議されたもの。

問：加西市のこれまでの人権啓発が問われている。成果が出ていないと考える。議員にも人権学習が必要ではないか。人権の取り組みはないのか。

答：人権問題は終わっていない。改めて取り組むべき内容で、市長も答弁している。信任が分かれたことと人権問題を終わりにすることとは別である。

答：これ以上の責任はないと考えている。人権問題は別、市長には決議以上の責任はない。責任問題は終わった。

## 2部 意見交換（公共交通の現状とあり方）

問：北条鉄道のトイレ整備は良いことだが、何で沿線地域の人だけでやるのか。広く声かけがない。5万都市再生のためにどのような体系がいいのか、公共交通の在り方、予算がどう使われているのか、これまでの取り組みや投資が無駄になっていないか。

答：現在の計画は超高齢化見据え、車にたよる現状を踏まえた内容であり、新年度は新連携体系をつくって充実した公共交通体系をめざしたい。5万都市再生の課題もあるが、現状の高齢者等の交通の確保を実現させたい。

問：65才以上の市民がどこに何人住んでいるのか、利用者増だけを追及するのか、少数者の利用を確保するのか、公平公正な体制を作るためにどの意見を採用するか、赤字覚悟できめ細かい体制ができるか、法華山へもバスを走らせてほしい。

答：各地域の要望をどうまとめるか、現状の交通連携の充実、デマンド交通の導入、運転手を確保している加東市の事例等、加西市の体制づくりを検討していく。

### 《その他》

問：議会の考え方を聞きたい。

①議員と市川町との懇談会について

②2年続けて、指名業者と議員が四国と岡山へ行ったと聞くが事実かどうか、その内容は。

③森田議員の3千万円の説明責任が果たされていないがどうなっているか。

答：①大まかに言えば、加西市議と市川町行政と会食をした。市議は自己負担の認識であり、市川町は水道の件があり行政として対応したもので問題はないとしている。ただ、水道料金交渉の重要な時期に接待を受けることは問題との指摘が議員協議会で出されたというのが、現時点での認識である。②については、正確な内容はわからない。③は民間の団体のことであり、議会では何もない。訴えもないことで、これ以上申し上げる内容は無い。

問：②の指名業者と議員が出張している点について、業者名も議員名も分かっているので

すが、どうですか。

答：何年も前から県会議員の指示でバイオの視察研究をしているが、四国には竹林整備も含めた竹粉製造と肥料にして販売活用をしている会社、岡山は木質ペレットを燃料として活用している事例と発電燃料にしている会社を視察したもので、費用はすべて各自個人負担、受け入れ先に問い合わせ調査すれば分かること。

問：市議会のインターネット録画放映を見ている。泉中の工事に疑問を抱く。大規模・高額な工事であり学校工事は平行して複数着手されているが、市教委のスタッフが不足しているのではないか。インターネット入札の時期も5月の連休をはさんで行われており疑問に思うが、調査するための委員会を設置してほしい。

答：総務委員会で確認する。

問：仮設工事に2億数千万、県はプレハブ専門業者に別発注する方式をとるが、加西市は同業者に発注して経費が増えているのではないか調査を願う。

答：総務委員会で確認する。

問：多く残っていると思う加西市誌について、残部を活用するために公民館等への寄付をしてはどうか。神戸新聞に掲載された『播磨国風土記』のパンフは、僅か3千部と報道されたが、こういうものは盛り上げるためにも市内全戸配布してはどうか。

答：1300年事業とも合わせ、有効な活用を図ることが大事。